



Characteristics of radiographic morphometries of the lower leg in subjects with progression of knee osteoarthritis in the TOEI cohort

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2020-04-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: TRAN, HUU DUNG メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003712

論文審査の結果の要旨

変形性膝関節症は、最も一般的な整形外科疾患の 1 つである。しかし、一般住民における変形性膝関節症の進行に関連する下肢の形態学的特徴を報告した研究はほとんどない。本研究は、変形性膝関節症の進行等と下肢の形態学的 X 線パラメータの関連を明らかにすることを目的とした。2014 年から 2016 年までの、TOEI コホート研究のデータにより、変形性膝関節症と下肢の形態学的 X 線パラメータを評価した。女性の 323 肢、男性の 163 肢を分析対象とした。2 年後の変形性膝関節症の進行の有無に従って 3 つのグループに分けた。変形性膝関節症を示さなかったものはグループ 1 (コントロール群)、2 年間安定していた変形性膝関節症の症例はグループ 2、2 年間で変形性膝関節症が悪化したものはグループ 3 とした。2014 年に撮影された X 線画像を用いて、下肢の形態学的 X 線パラメータを測定した。それらのパラメータと群の関連について多項ロジスティック回帰分析による検討が行われた。分析の結果、形態学的 X 線パラメータである height of the hip center (HHC) について、女性のグループ 2 はコントロールより有意に高く、グループ 3 はグループ 2 より有意に低い結果が、一方で男性のグループ 2 はコントロールより有意に低く、グループ 3 はグループ 2 より有意に高い結果が得られた。また、lever arm ration (LAR) について、女性のグループ 2 はコントロールより有意に低い結果が得られた。これらのパラメータは股関節外転筋の筋力と関連することから、変形性膝関節症との関連が現れたと考えられる。

審査委員会では、詳細な機序の解明についてはさらなる研究が期待されるが、形態学的 X 線パラメータの詳細な検討により、変形性膝関節症悪化の予測因子が性別により異なることをはじめて報告した点等を評価した。

以上により、本論文は博士 (医学) の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 尾島 俊之

副査 宮嶋 裕明

副査 山内 克哉